

世界史探究

学習プリント

高等学校 地理歴史科

A

世界史へのまなざし

地球の歴史 人類の拡散 日常生活の来歴

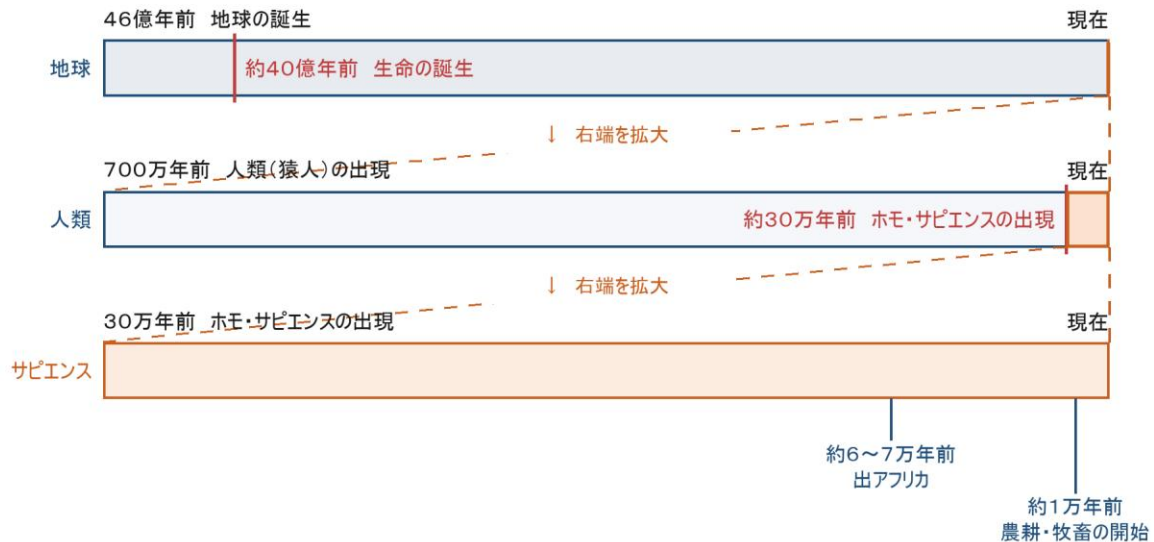
大項目をつらぬく問い 私たちの日常生活は、いつ、どこで世界の歴史とつながったのか。

学習の初めに、いまの自分の予想（仮説）を書いておく。

A(1) 地球環境から見る人類の歴史

■ 1 三つの異なる時間の尺度

三つの時間の尺度 — 地球・生命・人類



文字が使われはじめるのは約5000年前。この帯の右端1.7%にすぎない。
46億年を1年に置きかえると、生命の誕生は2月ごろ、人類の出現は12月31日の午後、農耕の開始は大みそかの最後の数十秒。

(1)地球・生命・人類

地球の歴史、生命の歴史、人類の歴史は、それぞれまったく異なる長さをもっている。

- ・地球の誕生 …… 約【46】億年前
- ・生命の誕生 …… 約【40】億年前（海中の単細胞生物）
- ・人類（猿人）の出現 …… 約【700】万年前（アフリカ）
- ・ホモ・サピエンス（現生人類）の出現 …… 約【30】万年前（アフリカ）
- ・農耕・牧畜の開始 …… 約【1】万年前
- ・文字の使用の開始 …… 約【5000】年前

地球の歴史46億年を1年間に置きかえると、生命が生まれるのが2月ごろ、人類が現れるのは【12月31日】の午前、農耕が始まるのは大みそかの【最後の数十秒】にすぎない。教科書が扱う「世界史」は、地球の歴史のほんの末端で起きているできごとである。

※ 地球・生命・人類の歴史は、それぞれ異なる時間の尺度をもつ。同じ一本の帯に描こうとすると、人類の七百万年は線一本の幅にもならない。この「尺度の違い」に気づくことが、この中項目のねらいである。

上の図で、人類の歴史を見えるようにするには、帯を三段に分けて右端を拡大するしかなかった。このことは、歴史の年表を読むときにどんな注意を促しているだろうか。

解答例 年表は目盛りが均等ではないことが多く、近い時代ほど細かく、古い時代ほど粗く描かれている。年表の見た目の長さ、実際の時間の長さは一致しないと意識して読む必要がある。

■ 2 人類の拡散と地球環境

(1)出アフリカ

ホモ・サピエンスは約6～7万年前にアフリカを出て（【出アフリカ】）、およそ次の順で世界へ広がった。

アフリカ → 西アジア → ヨーロッパ・南アジア → 東アジア・東南アジア

→ オーストラリア（約5万年前） → アメリカ大陸（約1.5万年前）

この拡散を可能にしたのは、【氷期】に海面が低下し、陸地や陸橋が現れたことである。アメリカ大陸へは、氷期に陸続きとなった【ベーリング】海峡を渡ったと考えられている。

(2)環境に働きかける

人類は環境に一方的に適応しただけではない。約1万年前、西アジアで【農耕】と【牧畜】が始まると、人類は環境に積極的にはたらきかけ、みずから食料を生産するようになった。定住・人口増加・余剰生産物の蓄積が進み、やがて【都市】と【文明】が生まれた。

発展 人類の特性としてしばしば挙げられるのは、直立二足歩行、大きな脳、言語、火の使用、そして「その場にはないもの・見えないものについて語り合える」能力である。神話や宗教、貨幣や国家といったしくみは、いずれもこの能力の上に成り立っている。

「人類の歴史は地球環境に規定されてきた」という見方と、「人類は地球環境を作りかえてきた」という見方は、どちらが正しいだろうか。

解答例 どちらか一方では説明できない。氷期の海面低下が拡散を可能にした点では環境に規定されているが、農耕・牧畜の開始以降は人類の側が環境を作りかえている。時期によって、どちらの向きの作用が強いかが変わると考えるのが妥当である。

探究 人類が地球規模に拡散できた理由を、①自然環境の側の条件 ②人類の側の条件 に分けて、それぞれ具体例をあげて説明しなさい。
